

## 2020 年度活動報告 CJP 授業：読解 5－8 A

佐野 真弓（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本授業は、中級後半以上（レベル 5 から 8）の学生を対象とする週 1 コマ開講されている選択科目である。従来は対面での授業だが、2020 年度春学期は、同時双方向型のオンライン授業を実施した。目標は、1) さまざまなジャンルの新聞記事について、概要が理解できるようになること、2) 記事の内容について説明し、話し合いができるようになることである。教材は主として最近の新聞記事（主に全国紙）電子版を利用した。

### 2. 授業内容

本授業では、学生が自ら立てた問いに対して、新聞記事の収集とその読解を通して答えることができる、さらに、得られた知見を他者と共有し、議論できることを目指した。それを達成するために、スキルの育成、および、それを利用した実践の両輪で進めた。前者は、新聞読解と発表のスキルを身につけることをねらって、知識の獲得とその知識を利用する練習を行った。後者は、学生が自身の社会的問題意識をもとに設定したテーマに沿って、新聞記事を収集し、それらを読み解き、複数の記事を比較しながらまとめることを行った。さらに、得られた情報や知見を他者に伝え、意見の交換を行った。

以下では、スキルを利用した実践の例をいくつか紹介する。情報収集の実践では、求める記事かどうかを迅速に点検したり、記事から必要な情報を効率的に掘り取って拾い読んだりするのに読みのスキルが用いられていた。また、収集した複数の新聞記事をまとめるためには、要約やパラフレーズに関するスキルが有効に利用されていた。さらに、クラスメイトやボランティアの日本人学生を聞き手とした発表時には、他者にわかりやすく伝えるためのスキルの一つとしてのメタ表現の活用が見られた。

### 3. 成果と今後の課題

成果は、学生が新聞記事の収集や読解を通して、自ら立てた問いに対する答えを見出せていたことである。中級の学生にとって、新聞読解は決して容易ではない。だが、受講生は授業で学んだスキニングやスキミングなどのスキルの活用によって、記事の中に自身が手に入れたい情報の有無を素早く点検し、得られた必要箇所の重点的な読み取りができていたと思われる。他方、発表の活動では発表内容に即したディスカッションが行われたが、話し合いを活性化されるのがオンラインでは難しいという声が学生より聞かれた。その点については、今後オンライン授業に合った指導の在り方を模索したい。